

# 公 民 [ 倫 理 ] ( 100 点 50 分 )

2007年9月25日(火)2限実施

千葉県立千葉東高等学校 第3学年 1,2,3,4組

Edited by K.Kataoka ©

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - 学年、組、名前を記入する。
  - 学年、組の該当個所をマークする。
  - 出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)
  - 男女の欄をマークする
  - 1.2.3枚目のところはマークしない。
  - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
  - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 8 ) に答えよ。( 配点 20 )

イスラエル人の聖典である『旧約聖書』の [ 1 ] によると、紀元前 13 世紀に彼らの一部が移住先のエジプトから、モーセにひきいられて再びカナーンへと脱出した。その途中、神は彼らを救出するとともに、(a)シナイ山においてモーセを通じて十戒をさずけ、これを守ることを要求したという。彼らは、これをヤハウェとイスラエルの民との契約であると受けとめ、神を信じ、十戒を中心とする律法 トーラー にしたがうかぎり、民族の救済と繁栄が約束されると理解した。

その後イスラエル人は、カナーンの地においてダビデ王やソロモン王のもとで王国として栄えるが、神と契約した民(選民)としての自覚を失いつつあった。そのようななかで、[ 2 ] とよばれる人々が登場し、当時の社会と宗教のあり方を批判した。しかし、その批判もじゅうぶんに受け入れられることなく、やがて王国は南北に分裂したのち、ともに滅ぼされ、とくに紀元前 6 世紀には、南のユダ王国の多くの人々が捕虜として連行された。多くの [ 2 ] たちは、国を失うことになったのは律法を守らなかったからであると語り、しかし神は、イスラエル人を許し、救世主(メシア)を世に送るだろうと語った。こうして人々は律法を守り、いつの日かイスラエル人に栄光がもたらされることを期待し、メシアを待望しながら苦難を耐え忍んだ。

ガリラヤの町ナザレに育ったイエスは、30 歳のころ洗礼者 [ 3 ] の洗礼を受けた。イエスの発言と行動は、『新約聖書』のなかにさまざまな形で伝えられている。そこには、(b)ユダヤ教とは異なる新しい宗教の方向性が、はっきりと示されている。

イエスは「時は満ち、神の国は近づいた」と語り、伝道活動を開始したと伝えられている。神の国とは、現実に繁栄する王国でも、律法を守る人々だけがむかえ入れられる来世の楽園でもない。それは、「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」というイエスのことばが示すように、神の愛や救いが、律法の支配によって差別されたり、社会的にしいたげられた人々に、すでに差しのべられようとしていることを告げているのである。これは、恵まれぬ人々にとって、(c)なぐさめと希望をあたえる福音であった。

しかしイエスは、律法を全面的に否定したわけではない。イエスは、律法のなかで、どのおきてがもっとも大切かと問われて、次の二つをあげている。第一は「心を尽つくし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」であり、第二は (d)「隣人を自分のように愛しなさい」ということであった。

このように命じる神とは、イエスにとって、(e)愛の神であった。したがって、そのよう

な神があたえる律法は，その愛にこたえて，その人自身の内面から神を信じ愛すること，また，どのような人々をも分けへだてなく愛することを求めるのである。

問1 文章中の空欄 [ 1 ]・[ 2 ]・[ 3 ]に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |       |   |           |          |
|-------|---|-----------|----------|
| [ 1 ] | [ | 「ヨハネの黙示録」 | 「創世記」    |
|       |   | 「イザヤ書」    | 「出エジプト記」 |
| [ 2 ] | [ | 預言者       | 士 師      |
|       |   | 律法学者      | 使 徒      |
| [ 3 ] | [ | ヨハネ       | ヘロデ      |
|       |   | ヨセフ       | サロメ      |

問2 下線部(a)に関連して，モーセに与えられた十戒の中の言葉として**適当でないもの**を，次の ~ の中から一つ選べ。[ 4 ]

あなたはみだりに酒を飲んではならない

あなたは自分のために，刻んだ像をつくってはならない。

あなたの父と母を敬え。

安息日を覚えて，これを聖とせよ。

問3 下線部(b)に関して，ユダヤ教から展開していったキリスト教における神と人間についての記述として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 5 ](2007年センター本試験より)

人間は神による被造物であり，愛の神が遣わした救世主(メシア)を信じることによって救済される。

人間は，神の定めた安息日や食事の規定などの戒めを厳しく遵守する律法主義によってのみ，神の怒りをなだめることができる。

神は万物と等しくあり，万物の中に入り込んでいるので，人間の喜怒哀楽の感情も神の現れである。

神の慈悲に促された人間は，他の人々を救済することを誓い，一人でも救済されない間は自ら救われることはないを決意している。

問4 下線部(c)に関連して、「福音」のもともとの意味として最も適当なものを、次の  
～ のうちから一つ選べ。[6]

宗教的戒律  
悔い改め  
喜ばしい知らせ  
魂の救済

問5 下線部(d)に関して「隣人」とはどんな人を指しているのか。次のマザー・テレサの  
言葉を読み、最もよく合致するものを、下の ～ のうちから一つ選べ。[7]  
(2002年センター本試験より)

この世の中で、私たちがたんなる数ではないと思うことは、素晴らしいことです。私た  
ちは神ご自身の子どもです。インド、日本、アメリカ、ヨーロッパに住む人も、そして世  
界のどの地域に住む人びとも、みな、私の兄弟、私の姉妹なのです。あのととてもさびしそ  
うな人、とても貧しい人、とてもかわいそうな人、そしてとても偉い人も私の姉妹、私の  
兄弟です。……神はすぐそこにおられます。どこ？ 貧しい人びとの中に、私の家族の母、  
兄、妹、夫や妻の中に。そこにいらっしゃるのです。

(マザー・テレサ『生命あるすべてのものに』)

恵まれた人たちからの経済的な助けを必要とする社会的弱者。  
血縁でつながった家族や親族、あるいは同一の民族に属する人間。  
様々な状況において出会い、神の愛の下でともに生きる人間。  
同じ神を信じ、互いの利益をはかり合う宗教的な共同体のメンバー。

問6 下線部(e)に関して、新約聖書の中でイエスが、人間に対する神の愛のあり方をたと  
えた記述として最も適当なものを、次の ～ のうちから一つ選べ。[8]

ものごとの価値がわからない豚に与えられる真珠  
生きて帰ってきた放蕩息子を喜んで迎え入れる父  
霊の建物の礎となった生きた捨て石  
自ら種を蒔くことも刈り取ることもしない空の鳥

問7 下の文中の空欄 [ A ] に入る言葉として最も適当なものを、次の ～ のうち  
から一つ選べ。[9]

『隣り人を愛し、敵を憎め』といわれていたことは、あなたがたの聞いているところ  
である。しかし、私はあなたがたに言う。[ A ] こうして、天にいますあなたがたの父  
の子となるためである。(『マタイによる福音』より)

敵を愛し、迫害する者のために祈れ  
人にされたことは、何でも、同じようにあなたがたも人にしなさい  
本当の敵と味方を間違えてはならない  
敵は私が滅ぼすから、思いわずらうな

問8 福音書に記されたイエスの言葉と行いに関する記述として最も正しいものを，次のうちから一つ選べ。[ 10 ]

ユダヤ教の当時のあり方を批判し，自ら4つの福音書を書いて新しい信仰のあるべき姿を示した。

ユダヤ教の律法を廃するためではなく，成就するために来たのであるとして律法の本来の意味を内面化することを求めた。

ヨルダン川のほとりで人々に悔い改めを求めて洗礼を与えるとともに，救世主の出現が近いことを告げた。

キリスト教の開祖として広く地中海世界に宣教するとともに，処刑されても死なずキリスト教の世界宗教化に力を注いだ。

第2問 次の文を読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 20)

新しく生まれたキリスト教が、ユダヤ人以外の民族まで普及することに、もっとも貢献したのがパウロであった。彼は当初ユダヤ教の[ 11 ]派に属し、キリスト教徒たちを迫害していたが、ある日キリスト教徒の弾圧に向かう途中で、突然イエスが彼のもとにあらわれるという神秘的な経験をする。彼はそれを神の啓示と受けとめ、キリスト教へ劇的に回心し、以後キリスト教の教義の確立と伝道に力を尽くすことになった。

パウロを強く動かしたのは、彼自身の深刻な罪の意識であった。「わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです」とパウロは告白する。この罪の意識は、ユダヤ教の律法を守ることによって救われなかった。パウロはむしろ、人間が神にそむいて以来、人間の根源にまで達するような罪が存在し、人間の力だけでは、そのような罪からの救われられないと考える。そして彼は、原罪からの救いを、十字架上のイエスにみた。イエスの十字架上の死は、そのような人類の罪をあがなうために、神がそのひとり子をつかわしたものであった。万人の罪をあがないのために死んだ、神の子イエスを信じることによって、パウロは罪の苦しみから解放されたのである。

「[ A ]」ということが、パウロのもっとも伝えようとしたことである。彼はイエスを信じて、信仰と希望と愛(キリスト教の三元徳)をもって生きることを人々に説きつづけた。

こうしてキリスト教は、当初のきびしい迫害のなかを生きつづけ、しだいに信者を広げ、4世紀末にローマの国教として認められるようになった。またこの間に、イエスのことばを伝える「福音書」を中心として『新約聖書』がまとめられた。さらに、(a)教父とよばれる人々が、キリスト教徒の信仰すべき教えを教義として理論的にととのえ、キリスト教の正統な教会としてカトリック教会を成立させた。

教父のなかで後世にもっとも大きな影響をあたえたのは、(b)アウグスティヌスである。彼は青年時代に奔放な生活を送ったが、やがて[ 12 ]の影響を受け、さらにパウロの書簡などとの出会いを通じて、宗教的生活に入った。

アウグスティヌスは、心の内に目を向けることによってこそ、本当の自分自身に出会い、さらにそのもっとも内奥において、自分の心をもこえた存在である神に出会うことができるという「内なる道」を説いた。また、人間は神からの[ 13 ]によってのみ救われるが、教会こそがその救いを伝える機関だと主張した。教会は、理想的な「神の国」と、現に存在する地上の国との間に立って、現実世界の国家を導かなければならないのである。

さらに、12世紀になってアリストテレスの著作がイスラーム世界から西欧に伝えられると、西欧の思想はその大きな影響を受けた。その後、(c)トマス=アキナスはキリスト教の信仰を体系化した。トマスによれば、人間は信仰によって神から啓示された真理を受け入れるのであるが、その内容を理解し説明するためには理性を用いる必要がある。彼はこ

のような考え方を展開したので，(d)スコラ哲学の完成者とよばれた。

問1 文章中の空欄[ 11 ]・[ 12 ]・[ 13 ]に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |         |          |
|--------|---|---------|----------|
| [ 11 ] | [ | アリウス    | サドカイ     |
|        |   | ペラギウス   | パリサイ     |
| [ 12 ] | [ | 新プラトン主義 | アヴェロエス主義 |
|        |   | ストア主義   | 福音主義     |
| [ 13 ] | [ | 三位一体    | 恩 寵      |
|        |   | 離 脱     | 審 判      |

問2 文中の空欄[ A ]に入る，最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。  
[ 14 ]

- 自由意志に基づいて善行を積むことが罪の許しとなる
- 選ばれし人間は人類のために社会道徳を超越する権利がある
- 人はパンのみにて生きるにあらず
- 人間が義とされるのは律法によるのではなく信仰による

問3 二人の使徒，ペテロとパウロに関する記述として**適当でないもの**を，次の ~ のうちから一つ選べ。[ 15 ]

- シモン＝ペテロはガリラヤ湖で漁師をしていたときイエスの一番弟子となった。
- ローマ・カトリック教会ではシモン＝ペテロが初代教皇であるととらえている。
- パウロはペテロとともに福音書を書き，正典として聖書におさめられた。
- パウロはローマの市民権を持ち，ギリシア語で地中海世界に福音を宣教した。

問4 下線部(a)に関連して，ラテン教父テルトゥリアヌスの思想をあらわす言葉として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ [ 16 ]

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 不合理なるがゆえに信ず | 哲学は神学の婢である    |
| 知らんがために我信ず  | キリストは神の被造物である |

問5 下線部(b)に関して，アウグスティヌスの著作として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ [ 17 ]

- |          |      |    |         |
|----------|------|----|---------|
| キリスト者の自由 | 神学大全 | 告白 | キリスト教綱要 |
|----------|------|----|---------|

問6 下線部(c)に関してトマス = アキナスの思想をあらわす記述として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 18 ]

アウグスティヌスなどの教父思想, アリストテレス, 新プラトン哲学, イスラーム, ユダヤ思想などを継承しつつ, 信仰と理性, 神学と哲学の統一を追究した。

預言者は真理を日常的表現で説き, 哲学者はそのことばのなかに真理をみいだすというところから, 哲学は信仰の上位にあるとする二重真理説をとらえた。

地上で争ってきた二つの国は, 世の終わりの時に, 「地の国」は永遠の劫罰を受け, 平和に満ちた「神の国」が勝利して天上の至福にあずかるとした。

一切は神から必然的に生じるものであり, 倫理的問題に関しても, 永遠の相のもとで事物を考察することによって判断されなければならないとした。

問7 下線部(d)に関して, スコラ哲学最大の論争「普遍論争」についての正しい記述として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 19 ]

ウィリアム = オブ = オッカムは, 現実的なものは感覚的に直感された個物だけであり, 言葉は一般的な観念をあらわすにすぎないとする唯名論の立場に立った。

カンタベリーのアンセルムスは, 普遍は自然的実在ではなく知性の構成物にすぎないとする実念論の立場に立った。

トマス = アキナスは, 普遍は神的には ものの前に , 自然的には もののうちに , 知性の抽象によって ものの後に あるとする穏やかな唯名論の立場に立った。

中世末期にはプラトンに由来する唯名論よりも, アリストテレスに由来する実念論の方が優勢となった。

問8 次のキリスト教思想家たちのうち, かつてマニ教徒であった人物として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 20 ]

パウロ

アウグスティヌス

シモン = ペトロ

トマス = アキナス



第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 10)

現在のインドにはムスリムも多く暮らしているが、もっとも人口が多いのはバラモン教の系譜を引く[ 21 ]を信じる人々である。

今から 3,000 年近く前に、北インドには[ 22 ]制とよばれる身分秩序が生まれた。その最上位はバラモン(司祭者)で、順にクシャトリア(王族・武人)、ヴァイシャ(庶民)、シュードラ(隷属民)となっていた。それぞれが枝分かれし、いくつもの階層に分けられ、(a)『ヴェーダ』とよばれる聖典に記載された神々を祭る儀礼が重視されていた。

しかし、やがてカルマ(業)に対する深い思索がなされるようになり、すべての生きものは死後、自分のカルマにふさわしい姿に生まれ変わるといふ輪廻転生の思想が生まれた。生あるものはすべて、生と死を無限にくり返す。次に自分が何に生まれ変わるのか、人々は不安を感じながら生きていかなければならない。生は喜ばしいものではなく、苦痛にみちたものとみなされた。

『ウパニシャッド(奥義書)』という哲学書には、この苦しみからのがれるために、(b)解脱(悟り)をする方法が説かれている。『ウパニシャッド』は、「ヴェーダの終局」という意味で『ヴェーダンタ』ともよばれる。解脱のためには、さまざまな苦行が課せられたが、多くの修行者をひきつけていた。これら修行者のなかから、バラモン教を批判して、教団として独立した活動を展開する動きが現れる。のちに(c)六師外道とまとめてよばれるようになるが、仏教ももとはこれらと同じ潮流に属していた。

問1 文章中の空欄[ 21 ]・[ 22 ]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |         |        |
|--------|---|---------|--------|
| [ 21 ] | [ | ゾロアスター教 | ヒンドゥー教 |
|        |   | シク教     | 仏教     |
| [ 22 ] | [ | インドラ    | ヴィシュヌ  |
|        |   | ヴァルナ    | シヴァ    |

問2 下線部(a)に関して、最古の『ヴェーダ』であり神々への賛歌を集めたものはどれか、次の～のうちから一つ選べ。[ 23 ]

- |          |           |
|----------|-----------|
| リグ・ベータ   | サーマ・ベータ   |
| ヤジュル・ベータ | アタルヴァ・ベータ |

問3 下線部(b)に関して、ウパニシャッドの思想の記述として最も適当なものを、次の  
～の中から一つ選べ。[24]

宇宙の根源はブラフマンとよばれる。一方、個々人の根源はアートマンとよばれる。両者は別のもののように見えるが、実は一体であり、そのことを瞑想によって体験すれば、自己と宇宙とが調和する境地が得られる。

宇宙の根源はアートマンとよばれる。一方、個々人の根源はブラフマンとよばれる。両者は別のもののように見えるが、実は一体であり、そのことを瞑想によって体験すれば、自己と宇宙とが調和する境地が得られる。

宇宙の根源はアートマンとよばれる。一方、個々人の根源はブラフマンとよばれる。アートマンは万物の存在根拠でありブラフマンに働いて秩序を生成させ、両者の関係は不離不雑である。

宇宙の根源はブラフマンとよばれる。一方、個々人の根源はアートマンとよばれる。ブラフマンは万物の存在根拠でありアートマンに働いて秩序を生成させ、両者の関係は不離不雑である。

問4 下線部(c)に関連して、ジャイナ教の開祖ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)の教説として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[25](2006年センター本試験より)

人間の行為の善悪の究極的な基準は存在せず、悪行を行う人を非難する根拠もなく、善行も賞賛の対象にはならない、と説いた。

解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに、生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならない、と説いた。

人間の思惟の形式は、世界の一部しか理解できない限定的なものであり、真理に到達するためには人間の思惟を否定しなければならない、と説いた。

運命によって人間の幸不幸は決まっており、人智の及ぶところではないので、いかに努力しても幸福になれるとは限らない、と説いた。

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 20)

仏教の開祖ゴータマ=シッダッタが生まれたころには、バラモンの権威がゆらぎ、武人や庶民が力をもつようになっていた。[ 26 ]として生まれた彼は、身分制度を批判し、人間は真理の前には平等であると述べて、[ 27 ]とよばれる正しい理法の実践を追究した。

ゴータマが恵まれた家庭環境を捨てて出家したのは、物質的な幸福、肉体的な健康のほかなさを実感したからであった。そして、(a)坐禅によって静かに悟りをひらいたあとは、衆生にその教えを広めるための説法を開始した。彼は、輪廻などのあらゆる苦悩は、(b)煩悩にまどわされて苦の原因について無知であることに由来すると考えた。そして煩悩を断ち切って心のけがれをすすぐ必要があるとする。

悲惨なことは、(c)愚かな人間が苦のなかにありながら、その原因を知らないために、かえって苦の原因を積み重ねていることである。個々の悪しき意志や卑劣な感情、むなしい願望などは、けっしてそれ自体で起こるのでなく、すべてこの[ 28 ]に根ざした一連の現象であるため、この原因をはっきり知らなければならない。それをまとめたのが(d)四諦であり、その実践の方法が(e)八正道である。

正しい修行を積んだ結果、すべての束縛から解脱した悟りの境地にいたることができる。それを(f)涅槃という。人は、死ねば肉体の制約から解放されるため、涅槃とは死去を意味するようにもなった。とくに、ゴータマの死は、仏教信者たちによって解脱の理想的なあり方とされ、そのありようを描いた涅槃像が数多くつくられた。

問1 文章中の空欄[ 26 ]・[ 27 ]・[ 28 ]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |        |       |
|--------|---|--------|-------|
| [ 26 ] | [ | シュードラ  | バラモン  |
|        |   | クシャトリヤ | ヴァイシャ |
| [ 27 ] | [ | ダルマ    | カルマ   |
|        |   | サンサーラ  | スートラ  |
| [ 28 ] | [ | 無 我    | 無 記   |
|        |   | 無 心    | 無 明   |

問2 下線部(a)に関して、ゴータマ・ブッダが悟りを開いた場所として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[ 29 ]

- |        |          |
|--------|----------|
| サールナート | カピラヴァストゥ |
| クシナガラ  | ブッダガヤ    |

問3 下線部(b)に関して、三毒(三大煩惱)の個別の説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 30 ]

- 人間を悩まし害し誤謬に導く不善の心
- すべてのものを貪る欲望の心
- すべての理に無知である心
- 自分に逆らうものに対する怒りの心

問4 下線部(c)に関してこのような道理を知らない人間を指す仏教用語として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 31 ]

- 愚 鈍          声 聞          凡 夫          縁 覚

問5 下線部(d)ゴータマ・ブッダが説いた「四諦」(四聖諦)のそれぞれについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 32 ](2003年センター本試験より)

「苦諦」とは、苦を引き起こす原因として、無知、欲望、執着といったもろもろの心の煩惱があるという真理である。

「集諦」とは、理想の境地に至るためには、八正道の正しい修行法に集中すべきであるという真理である。

「滅諦」とは、煩惱を完全に滅することで、もはや苦が起きることのない平安の境地に達するという真理である。

「道諦」とは、あらゆる事物が存在し変化していくには、必ず依拠すべき道理があるという真理である。

問6 下線部(e)八正道についての説明として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 33 ]

- 八正道は中道の具体的な内容をあらわしている。
- 八正道を行うことによって六道輪廻が成就する。
- 八正道の一つ正見とは正しいものの見方のことである。
- 八正道の一つ正定とは正しい瞑想のことである。

問7 下線部(f)涅槃をサンスクリット語で表した言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 34 ]

- ニルヴァーナ          マイトリー          カルナー          アビダルマ

問8 ゴータマ・ブツダの解脱観の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 35 ]( 2007 年センター本試験より )

人は、自分の中に永遠的要素を見出すことによって解脱できる。

人は、身体的な苦行を積み重ねることによって解脱できる。

人は、不可知なるものの存在を認めることによって解脱できる。

人は、苦の原因を認識し執着から離れることによって解脱できる。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問3)に答えよ。(配点 10)

ゴータマの死後、その遺言にもとづいて、弟子たちは真理と戒律を柱として教説を広めていった。仏教教団は、出家者と在家信者から構成された。出家者は、家族からはなれ、戒律を守りながら修行を重ねる。在家信者は、ブツダとダルマ、[ 36 ]をうやまいながら日常生活を送る。やがて、ゴータマの教説をどう実践するかをめぐって、教団内部に相違が生まれていった。もともとゴータマの教えには、世俗をのがれ、きびしい戒律にしたがって修行し、悟りを完成させる面と、世俗の生活のなかで、万人のために悟りにもとづく[ 37 ]のはたらきをなしとげていく面とがあった。仏教教団は、この点をめぐって上座部と大衆部の二派に分かれ、さらに分裂を重ねていった。

その後、利他行を説く流派のなかから(a)大乘仏教が生まれた。大乘仏教は、インドから中央アジアをへて、中国・朝鮮半島・日本へと伝えられたため、北伝仏教ともいわれる。

(b)上座部仏教は、インドからスリランカ・ミャンマー・タイなどの南方に伝えられたため、南伝仏教ともいわれる。今でもこれらの地域では上座部仏教が信仰されている。

問1 上の文中の空欄 [ 36 ] [ 37 ]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |           |      |
|--------|---|-----------|------|
| [ 36 ] | [ | ボーディサットヴァ | カルマ  |
|        |   | サンガ       | スートラ |
| [ 37 ] | [ | 慈悲        | 渴愛   |
|        |   | 解脱        | 般若   |

問2 下線部(a)に関して、世親(ヴァスバンドウ)の思想と竜樹(ナーガールジュナ)の思想の記述として最も適当なものを、それぞれ次の ~ のうちから一つずつ選べ。世親は [ 38 ], 竜樹は [ 39 ] に答えよ。

縁起説を深化・発展させ、すべての事物は因縁によって生じたもので、固定的な実体を持たないとする空の思想を理論化した。

法華経に深く傾倒し、仏に至る道は結局はいずれも同じものであるとする一乗思想を強く主張した。

自己の内なる仏性を確信して、ひたすら坐禅に徹することが肝要であるとする、禅の思想を体系化した。

すべての事物は、認識する心の働きの所産にすぎず、実在しないとする唯識の思想の発展に大きな貢献を果たした。

命あるすべてのものは、ことごとく仏となりうる可能性を有するとして如来蔵思想を唱えた。

人間の苦の直接の原因は誤った業であり、その原因は煩悩であるゆえ、涅槃の境地を得るためには、煩悩を断ずればよいとした。

問3 下線部(b)について、上座部仏教の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 40 ]

阿弥陀仏の極楽浄土の莊嚴を説き、次にその浄土に往生するために阿弥陀仏の名号を唱えることをすすめた。

真言・陀羅尼を繰り返しとなえれば雑念がなくなって禅定に入り、その結果、いっさいの言語説法を記憶する力を得られるとした。

まだ肉体が存する阿羅漢の境地は肉体的苦痛が存するので不完全であり、阿羅漢の死後に完全な涅槃があるとした。

禅定の実践を通して、すべてが意識の作用であることを認識し、心の他に存在が実在すると考えてはならないとした。

第6問 次の文を読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 20)

神道は、自然崇拜を中心とする原初の宗教意識から発展してきたが、宗教として形をととのえるようになったのは、発達した世界宗教である仏教が伝来して以後のことである。古代人の信仰はふつう(a)古神道といわれるが、古神道には個人的信仰の性格はない。古代の社会では、地域の農耕生活に基礎を置く氏族社会の習俗が人人の生活を支配していた。したがって、祭られる神も(b)祖先神(氏神)であると同時に、産土(うぶすな)神として祭られたのであって、共同体的信仰の性格がつよかった。仏教が伝来すると、日本の神々は、しだいに仏教の教義体系の中にとりこまれ、仏教の仏や菩薩が日本の国土にふさわしい姿をとってあらわれたものである、と考えられるようになった。

仏教は[ 41 ]にわが国に伝えられ、(c)聖徳太子によって確立された。太子は古い氏族社会の制度を革新して、仏教の理想にもとづく新しい統一国家を構想した。

奈良時代になると仏教は国家による保護と支配を受け、学僧による(d)唯識思想や戒律などの教義研究が進展したが、一般には病気や災いがふりかからないよう願い、現世の幸福を祈る宗教として信仰されていた。統一国家の基礎が固まってくると、天下の安泰を祈る鎮護国家の役割を果たすものとして、聖武天皇のときには、国分寺や国分尼寺、(e)東大寺の大仏などが朝廷によって建立された。また、[ 42 ]は土木事業や救済施設の設置などの事業をとおして人々の信望を集め、仏教の民間布教に努めた。

平安時代になると(f)最澄や(g)空海があらわれ、遣唐使船に乗って中国に留学して、新しい宗派を日本に伝えた。そして、政治権力と結びついた既成の仏教を批判し、世俗を離れた山岳における修行をとおして日本の仏教に清新な気風をふきこんだ。

平安時代の末になると、貴族の政治的支配力は衰退し、たび重なる戦乱や天災のなかで社会の秩序は乱れ、人々は不安と世の無常とを痛感するようになっていった。このとき、仏教の説く末法思想は、人々の絶望感をますます深刻化させた。このような不安のなかで、人々は自己の魂の救済を求めて、[ 43 ]信仰にひかれるようになった。

問1 文章中の空欄[ 41 ]・[ 42 ]・[ 43 ]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- |        |   |      |      |
|--------|---|------|------|
| [ 41 ] | [ | 4 世紀 | 5 世紀 |
|        |   | 6 世紀 | 7 世紀 |
| [ 42 ] | [ | 行 基  | 鑑 真  |
|        |   | 空 也  | 一 遍  |
| [ 43 ] | [ | 観 音  | 坐 禅  |
|        |   | 浄 土  | 密 教  |



問2 下線部(a)に関して、古代日本の神々の特徴をあらわす言葉として、**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 44 ]

唯一神                      崇り神  
自然神                      祀り祀られる神

問3 下線部(b)に関して、皇祖神の来歴が描かれている『古事記』の中で、伊弉諾尊(イザナギノミコト)が黄泉の国の穢れを禊いだ時に生まれたとされる神として、**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 45 ]

弁財天              須佐之男命              天照大神              月読命

問4 下線部(c)に関して、聖徳太子の事跡と伝えられていることとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 46 ]( 2007年センター本試験より)

無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経の注釈書である『三経義疏』を著した。  
儒教や道教よりも仏教が優れていることを説く『三教指帰』を著した。  
現世をはかないものとする「世間虚仮、唯仏是真」という言葉を残した。  
現世を汚れた世界とみなす「厭離穢土、欣求浄土」という言葉を残した。

問5 下線部(d)に関して、南都六宗の中で唯識派を研究した宗派として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 47 ]

律宗              三論宗              法相宗              華嚴宗

問6 下線部(e)に関して、東大寺大仏の仏として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 48 ]

阿弥陀仏              毘盧舎那仏              大日如来              釈迦如来

問7 下線部(f)に関して、最澄の思想の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 49 ]

真の仏道修行のためには厳しい戒律が必要であり、具足戒二百五十戒を守る修行僧こそが国の宝である。

悟りにいたる乗り物が三種類あるというのは方便で、実は唯一つの真実の教えがあるのみで、それによっていかなる人間にもすべて平等に仏に成る可能性がある。

煩悩即菩提という大乘仏教の立場からすると、戒律というものは一切不要であり、肉食妻帯すら仏道修行の妨げにはなりえない。

悟りにいたる方法には、声聞乗、縁覚乗、菩薩乗の三つがあるが、一切の人間の悟りのために修行する菩薩乗を選ぶ者だけが仏となる可能性を持つ。

問8 下線部(g)に関して、空海の著作として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 50 ]

『十住心論』              『顕戒論』              『山家学生式』              『往生要集』